

高校生就職内定率91・4%

昨年12月末時点、本県は95・6%

文科省

今春卒業予定で就職を希望する高校生の2021年12月末時点の就職内定率は91・4%だったことが18日、文科省の調査で分かった。前年度は新型コロナウイルスの影響で日程が1カ月遅れ、単純比較できないが、企業の採用選考解禁から同じ3カ月半後の21年1月末時点と比べると2・0ポイント減で、2カ月前の調査より減少幅は縮まった。文科省の担当者は「公務員試験の結果などが反映された

め」と分析している。

本県は95・6%で、全国平均を4・2ポイント上回った。

コロナ禍前の19年12月末時点の内定率(92・0%)に迫る水準。コロナ禍で不振の観

光業から、好調な建設・製造業へと進路を交える動きもあらとされることから、文科省

は年度末に向けて内定率はさらに上昇するとみる。就職希望者は前年度より1万3617人減少しており、同省の担

当者は「不振な志望業界を諦

め大学や専門学校に進むケースも増えているのではないかと話した。

調査は全国の国公私立高を卒業予定の99万8751人のうち、就職を希望する14万7435人を対象に実施。13万4727人が内定を得た。男女別では男子92・5%、女子は89・6%だった。

学科別では工業が96・7%で最も高く、商業94・6%、農業93・7%が続いた。

都道府県別では、最も高いのは富山で98・3%、次いで三重96・5%、岐阜と山口96・4%の順。沖縄71・3%、神奈川県83・3%などが低かった。